

## 脊髄係留症候群について

主に脊髄脂肪腫により脊髄円錐部が係留し、下肢の運動機能障害や形態の変形、膀胱直腸障害にて発症します。症候性になる前に予防的に脊髄の係留を解除することが大切です。

脂肪腫の大きさや脊髄円錐との位置関係により手術の難しさは異なります。

神経電気生理学的モニタリングを行いながら、運動機能や膀胱直腸機能に新たな障害が生じないように手術的加療を行っています。